

白山ふるさと文学賞

第九回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 最優秀賞

お母さんは魔法使い

松任小学校五年

嶋^{しま}

琉果^{るか}

私のお母さんは、とても優しくみんなを笑顔にできる魔法使いです。わたしにとってお母さんは、とても大切な存在です。

ある日、私は友達と遊びながら下校していて帰るのがおそくなつてしまったことがあります。お母さんは心配して、家の前で待っていてくれました。私は、お母さんに

「どこに行つたの。」

と、しかられてしまいました。少し悲しかったけれど、自分の為と言つてくれているのは分かっていました。だから、しかられたけれど、なんだかお母さんが待っていてくれていたことに心が温かくなり、うれしくなりました。

他にも、お母さんは私が習っているバスケットボールの練習をずっと見ていてくれます。

「こうしたほうがいいんじゃないの。」とか、

「ボールをもつと低く。」

などとアドバイスをしてくれます。週に4日も練習がありますが、暑くても寒くてもずっと見ていてくれます。仕事が休みの日は2日しかないのに練習に付き合ってくれます。私は、そんなお母さんがすごいと思いました。試合の日は、朝早くからおべんとうを作ってくれています。私が試合に出ているときも、

「疏果がんばれー。」

「あともう少し。」

などと、大きな声で応援してくれます。試合が終わった後も片づけを手伝ってくれます。でも、つかれたのか家に帰ったらベッドでねています。でも、すぐに起きて昼ご飯の準備、夜ご飯の準備をしてくれます。

私は、お母さんにもう少し休んでもらいたいです。でも恥ずかしいのでなかなか言葉にして言えません。言えたとしても、返ってくる言葉が想像できません。毎日のように

「つかれた。もう動きたくない。」

と言っているのは、私のせいじゃないかといつも心配になります。私が代わってあげられたらと思う毎日です。でも私は、そんなつかれているお母さんに、

「この宿題分らないから教えて。」

と言つてしまいます。言つた後からいつも、後かいしています。でもお母さんは優しく教えてくれます。

「ここ、こうじゃない。」

といつも笑顔で教えてくれます。つかれていて、本当は休みたいはずなのに。

お母さんの笑顔を見ると、家族みんな笑顔になっていきます。お母さんがいると楽しいので周りのみんなが笑顔になるのです。

バスケットボールの試合でなかなか良いプレーができないときがあります。そんな時でも、お母さんの笑顔が見たいからがんばれます。あきらめそうになったときでもふんばれます。お母さんは、わたしを笑顔にさせてくれる魔法使いです。

お母さんは、特別な力を持っています。私だけにではなく、お母さんのお友達やいっしょにお仕事をしている人を見てみると、みんな笑顔で楽しそうにしています。それを見ると私も笑顔になります。お母さんの笑顔は、リレーのように人から人へとつながっているように思えます。そのリレーは、知らない人でも、言葉を話せない赤ちゃんや動物でもつながります。お母さんの笑顔がバトンになっているのです。

私もお母さんのように、みんなを笑顔にできるやさしい人になりたいです。忘れ物をしてしまった子に貸してあげたり、困っている子や泣いている子に声をかけたりできるようになりたいです。大きなことはまだできないかもしれませんが、小さなことからでもいいのでやさしい人になりたいです。やさしさは人の役に立つことができると思います。たくさんの人にやさしくすることが、お母さんのような人を笑顔にしてくれ

る魔法使いにつながると思っています。

今、家でほとんどの家事をお母さんがしてくれていますが、洗たく物をほしたり、お皿を洗ったり、自分にできることはたくさんあると思います。今までできていないことも多かったですけれど、お母さんに少しでも休んでもらえるように、私にできることを一つずつしていきたいと思えます。

私も、お母さんのような、みんなを笑顔にできる魔法使いになりたいです。そして、今度は私がお母さんを笑顔にしたいです。

